



クリスマス

師走のさなかに、その日は訪れました。

外はじっとりとしており、とうてい雪は降りそうにありません。

美代は。ただ一人、窓から外を眺めていました。

サンタクロースにお願いしたたった一つの願い事を

何度も何度も胸の中で繰り返しながら。

外

美代はお母さんとお父さんがひとことでもお話して欲しいのにと感じていました。

きっとこの街に雪が降ったら、美代は精一杯の笑顔で

お母さんとお父さんに笑いかけようと決めていました。

そうすれば、きっとお母さんとお父さんはお話してくれる、と。

いつも泣いているお母さんと

いつも怒っているお父さんに。

ぽつ・・・・・・・・ぽつ・・・・・・・・

空からは雨が降ってきました。

美代はそれが早く雪に変わりますように、と祈りながら外を眺め続けました。

オトモダチ

ふと、雨粒の向こうに何かが動いた気がしました。

美代は目をこらして向こうを見ました。

小さい子どものような影が、美代に向かって手を振っているのです。

美代はびっくりしました。

幼稚園でもひとりぼっちの美代は、誰かにこうして手を振ってもらったことは

初めてのことだったからです。

オトモダチ。

美代はつい嬉しくなりました。

そうっと家を抜け出して、オトモダチのところへ向かいました。

握手

美代はその影に近寄って、またびっくりしました。

そこにいたのは子どもではなく、青い人形だったのです。

美代は驚いたまま尋ねました。

…オトモダチ…？

こくっと人形はうなずきました。

美代にとって、初めてのオトモダチでした。

お名前は？

今度は動かなくなってしまいました。

人形の髪からは、ぽたりぽたりと雫がたれていました。

美代はそっと右手を差し出しました。

オトモダチになる握手をしよう。

それは、幼稚園の先生がみんなに教えてくれた仲良くなる合図でした。

人形はそうっと右手を伸ばして、美代の手をつかみました。

その手はじっとりと雨を吸っていました。

あおこ

美代はお名前を考えてあげることにしました。

青い子だから「あおこ」。

ぴったりだと美代は思いました。

それを人形に言ったら、少し嬉しそうに、こくっとまたうなずきました。

そのとき、「あおこ」の口元が少し動いたように見えました。

・ ・ ・ ネ ・ ・ ガ ・ ・ ・ イ ゴ ・ ・ ト ・ ・ ・

「あおこ」はそう口を動かしたように見えました。

美代はお母さんとお父さんのことを思い出しました。

お願い事

美代は「あおこ」にお母さんとお父さんのお話をしました。

顔を合わせるといつも喧嘩ばかりしていること。

家族で一緒にご飯を食べたことがないこと。

いつもお家の中には泣き声か大きな怒鳴り声しか響いていないこと。

話しているうちに美代も我慢ができずにぼろぼろと泣いてしまいました。

お母さんとお父さんがお話をしてくれたらいい。

美代は「あおこ」にそう言いました。

「あおこ」はこくっと頷きました。

頷いた「あおこ」の口元からみるみるうちに牙が生えてきました。

美代は驚きました。

・ ・ ヒ ・ ・ キ ・ ・ カ ・ ・ エ ・ ・ ・

たしか「あおこ」はそう口を動かしたように見えました。

美代は遠のく意識の中でバリバリという音だけをかすかに聞いていました。

お母さんとお父さん

ふと気がつくと、雨が雪に変わってしんしんと降っていました。

美代は窓から家の中を覗いていました。

お母さんとお父さんが何かお話をしています。

いつものような怒鳴るような大きな声は聞こえてきません。

お喋りしてるんだ。

美代は嬉しくなりました。

「あおこ」がサンタクロースだったんだ。

お願いごとを叶えてくれた。

お礼を言おうと「あおこ」の元へ戻ろうと美代は歩き出しました。

さっきの場所へ近づくほどに、地に降りた雪が真っ赤に染まっていくことに

美代はまだ気づいていないのでした。